

2020年度事業報告

保全団体サポート事業

【相互交流の場の創出】

2020年は9月に山形県大蔵村で第26回の棚田サミットが開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため1年延期となり、例年の守り人ミーティングも行うことが出来ませんでした。

また、毎年、エコプロ展で「日本の棚田共同出展コーナー」を企画・運営してきましたが、2020年はコロナ禍により5月段階では開催不明のため、前回より内容を削減した共同出展企画を検討しました。6月段階で、全国棚田(千枚田)連絡協議会としては不参加が決定したため、棚田ネットワーク主催による展示に企画を変更。7月に企画書を作成したものの、8月に主催者判断によりオンラインのみでの開催に変更されたため、経費的・技術的に参加が困難で、残念ながら断念しました。

都市住民向けの普及啓発事業

【川代プロジェクト】

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、川代集落のオーナー行事は種まきは行ったものの、田植え、草刈り等も中止となり、稲刈りだけ行われました。川代プロジェクトも稲刈りだけの体験で広報も十分にできず、少人数の参加で終わりました。・新型コロナウイルス感染により、効率一辺倒の生活様式も見直すべきとの動きもあり、棚田地域の役割も高まる可能性があります。

会員のご協力により、収穫米については完売しました。

【恵那地区・棚田ビオトーププロジェクト】

棚田ビオトープが出来てから15年目になります。コロナ禍ではありましたが、棚田ビオトープ活動は担当者自身が「県をまたぐ移動」にならず、いつも通りとは行かないものの何とか活動を維持できたと思います。

棚田ビオトープ田植え（5月24日、3名参加）、こどもビオトープ観察会（大人6名、子供8名）、稲刈り（18名）、ヤマアカガエルの卵塊調査「かえるの卵を

探そう！（第14回）」（大人4名、子供7名）を実施しました。こどもビオトープ観察会とかえるの卵を探そう！は地元の子供たちが参加してくれ、その保護者から棚田に関するさまざまな情報を得ることができました。



【石部プロジェクト】

新型コロナウイルスの感染状況が明確にならない中、感染予防をしながらスタッフと少数のボランティアだけで、田起こし、畔切りまで行いましたが、4月の緊急事態宣言の発令により、2020年度のお米づくりを断念しました。8月にスタッフ2名で、2021年度のお米づくりのために草刈り整備を行いました。10月に棚田オーナー制度の稲刈りが行われ、高齢者の参加自粛により指導者が不足するため、スタッフ2名と

ボランティアでサポート活動を行いました。

1月～3月に棚田地域情報発信事業の委託を受け、ホームページのリニューアルとチラシ各種の制作を行いました。コロナ禍の中、実作業は中止に追い込まれましたが、その分地域への情報発信のサポートは充実して行えました。

【入門・活動紹介イベントなど】

本年は、新型コロナウイルスの影響で、1月下旬に開催予定だった「まちの先生見本市」が中止になるなど、さまざまなイベントの実施が見送りにになりました。

【旧暦棚田ごよみプロジェクト】

本年は1000部作成して728部（贈呈、見本等を含めると約800部）を販売しました。新型コロナのため、販売イベントなどは開催することができませんでした。一方で、毎年購入してくれるリピーターの方も多くなってきました。また、初めて、名入れでの制作依頼が1件あり、企業名をデザインに組み込み1000部納品しました。

【棚田NAVIプロジェクト】

2020年4月に、約50箇所の地域データとともに Web をオープンしました。順次掲載箇所を増やすとともに、会報誌『棚田に吹く風』の特集記事なども転載し、多彩で魅力的なポータルサイトを目指しています。2021年2月段階で、約120箇所の棚田地域が紹介されています。



企業・団体向けの普及啓発事業

【CSR活動サポート事業】

象印マホービン株式会社との協働イベントとして、千早赤阪村の棚田におけるお米作り体験や中学校の教室を借りた学習会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。なお、象印社からの協賛金および農家への圃場管理費の支払いについては計画どおり実施されました。

組織運営について

インターネットの普及でさまざまな情報が手軽に入手できるようになり、一方でオーソドックスな会員制度の維持はなかなか難しい時代ですが、安定的な事務所運営の維持とNPO法人としての基準に則った組織経営に努めました。

【広報・Web】

会報の特集で「棚泊」「コロナ禍と棚田」「棚田酒」「棚田でCAMP」を取り上げ、棚田をとりまく問題やポジティブな展開を伝えることができました。Web は、ネットHPに関しては新型コロナウイルスによる活動自粛のため発信する情報が少なく、その分、棚田NAVIの更新に力を入れました。